株主優待について

1. 500円相当の当社オリジナルQUOカードの贈呈
2. 「公益財団法人緑の地球防衛基金」への寄付
   （優待品相当金額の10% ＝50円）
3. 認定 NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）」への寄付
   （優待品相当金額の12%＝60円、株主1名当たり3名分のポリオワクチンの寄付）

○ 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主の皆様を対象といたします。

ホームページのご案内

ニュースリリースやIR資料等の最新情報をご提供しています。

http://www.rasaco.co.jp/

ラサ商事株式会社

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-782-031 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場金融商品	東京証券取引所市場第一部
取引所	（証券コード：3023）

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

RASA REPORT
CORPORATION

株主・投資家の皆様へ ｜ 第110期 報告書 ｜ 2011.4.1 ››› 2012.3.31

ラサ商事株式会社

証券コード：3023

ラサ商事は新たなグループ経営を開始しました。

当社は、合成樹脂・油脂・化学品の専門商社として70年以上の歴史を持つイズミ株式会社をM&Aにより取得し、2012年1月に子会社化しました。

これを受けて当社は、

- **イズミを加えた「ラサ商事グループ」として、新たに連結経営を開始**
- **これまでの3事業に新たに2事業を加え、グループ全体で5事業編成に移行**

しました。

新たに加わった2事業は、「化成品関連」事業と「不動産賃貸関連」事業です。

「化成品関連」は、ラサ商事グループの一員として子会社イズミが今後も事業運営に携わっていきます。

一方、「不動産賃貸関連」については、昨年10月に当社の本社ビルを竣工し、その一部フロアについて賃貸を開始したこと、子会社イズミが活用性の見込まれる賃貸不動産を保有していることなどを背景に、グループ保有不動産の有効活用を効率的に行うために新たに事業部門を設置したものです。

今後、当社は、ラサ商事単体ではなく、イズミを加えた「ラサ商事グループ」としての経営の目指すべき方向を模索し、追求してまいります。

これまでの事業セグメント

- 資源・金属素材関連事業
- 産機・建機関連事業
- 環境設備関連事業

これからの事業セグメント

- 資源・金属素材関連事業
- 産機・建機関連事業
- 環境設備関連事業
- ＋ 化成品関連事業
- 不動産賃貸関連事業

＊上記の5事業による業績報告は2013年3月期からとなります。

株主の皆様へ

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当期（2012年3月期）は、前期末に発生した東日本大震災の甚大な被害、それに起因した原発問題や電力不足、さらには欧州の金融危機、タイの大洪水、急激な円高など、歴史に残るほどの大きな出来事が発生した中での経営となりました。

このような激動の環境ではありましたが、当社にとっては大きな転換点となる出来事、すなわち二つの大きな決断を、具体的な形で実行いたしました。

一つは、昨年10月の本社ビルの竣工です。当社は、創業以来初めて保有する自社ビルに本社を移し、業務を開始いたしました。これを契機に本社機能の一層の強化を図るとともに、さらなる業容の拡大に向けて邁進しております。

もう一つは、M&Aの実現です。当社は、かねてより、安定性と成長性を兼ね備えた経営基盤の構築を目指して、新規事業分野の開拓・創造に取り組んでまいりましたが、本年1月にイズミ株式会社の株式を取得し、子会社といたしました。今後は同社と合わせ、グループとしての経営体制の構築を図るとともに、経営戦略の一体化に努めてまいります。

2013年3月期からは、当期において実行した二つの決断に、早期に“花”を咲かせ、“実”をならせる取り組みに注力することこそが、当社グループの企業価値の最大化につながっていくものと考えております。

株主の皆様には、引き続き当社の経営にご理解とご支援のほどお願い申し上げます。

2012年6月

ラサ商事の企業理念

世界に通用する一流技術商品と有用な価値ある
資源を国内外に販売し、豊かな社会に貢献

株主の皆様へ

トップ・インタビュー

新たにスタートした連結グループ経営を早期に軌道に乗せ、5つの事業推進による確かな収益と成長の経営基盤を構築してまいります。

当期は2期連続の増収増益となりましたが、主な要因は何ですか。

当期は震災の影響を考慮して、期初においては売上高がほぼ横ばい、営業利益が10%強の減益となる予想をしておりましたが、結果としては、売上高が前年同期比7.3%増、営業利益が同39.6%増となり、2期連続で増収増益を果たすことができました。

増収の要因は、「資源・金属素材関連」、「産機・建機関連」、「環境設備関連」の3つの事業がすべて好調に推移したためです。「資源・金属素材関連」では、主力のジルコンサンドの好調に加え、「10億円商材の育成」を目指して取り組んできた「輸入原料」（アルミナ系原料、黒鉛など）や「金属シリコン」が大幅増となり共に10億円超えを果たしました。「産機・建機関連」では、主力のワーマンポンプの順調な推移が売上増に寄与しました。また、「環境設備関連」では、水砕スラグ製造設備（ラサ・システム）が大型案件の売上計上によって大幅な売上増となりました。

大幅増益の要因としては、主に増収効果とコスト節減効果が貢献しました。特に、環境設備関連で大型案件の売上計上があったことは、利益アップに大きく寄与しております。

当期はM&Aによりイズミを子会社化しましたが、その背景や目的を教えてください。

当社は、成長戦略の基本方針として「更なる飛躍を目指し、安定性と収益性を兼ね備えた経営基盤の構築へ」を掲げて、これまで、M&Aの活用も視野に入れた新たな収益基盤の創造に取り組んでまいりました。イズミの子会社化は、この戦略に基づくものです。

イズミは、当社と同程度の長い歴史を持つ企業であり、売上高99億円、営業利益27百万円、有利子負債残高10億円（ともに2012年3月期）、10億円を超える不動産含み益のある安定企業です。今回のM&Aに至った背景の一つには、イズミの後継経営者難がありました。

当社がイズミを子会社化する決定を行った大きな理由としては、当社と同様に専門商社ですが、当社が販売する商品と重複するものはほとんどなく、当社とイズミとのシナジーが期待されると判断したからです（詳細は、P5-6参照）。

新たに始まったグループ経営をどのように推し進めようと考えていますか。

イズミの子会社化を決定するまでに、イズミの事業内容や強み、当社とのシナジーや期待される効果などを十分に把握・吟味しておりますが、そうした強みや効果を期待どおりのレベルで発揮させるためには、実務的な交流を通じて更に深い実態把握を行い、目指すべき効果を改めて見定めていかなければならないと考えております。

そのため、2013年3月期は、まずイズミの体制整備・強化に専念し、その目途が立ってきた段階から、グループシナジー創出への取り組みを本格化させていきたいと考えております。まずは地ならしをしてしっかりした基礎を築き、その上に“ラサ商事グループ”による新たな経営を積み上げていこう、という考えです。

なお、昨年10月に竣工し業務を開始した新本社ビルは、今後、グループ全体の戦略立案や事業統括など、グループ本社としての機能を担う重要な拠点となっていきます。その意味で、より大きなオフィス、よりIT環境の充実したオフィス、よりセキュリティの強化されたオフィスとなった新本社ビルの機能を、如何なく発揮していきたいと考えております。

今後の中長期的な展望をお聞かせください。

時代は今、大きな変革期にあります。現在の安定は将来において約束されたものではありません。従って私ども経営者に課せられた使命は、現状の安定基盤を強化すると同時に、将来の収益基盤となる“種”を植え“芽”ぶかせることであると考えております。

イズミの子会社化も、資源・金属素材関連における「10億円商材育成」の取り組みも、こうした考えに基づいたものです。今後は、イズミの事業を含めた全事業間のシナジーを追求すると同時に、各事業において第2・第3の収益の柱の育成に努め、中長期的な視点に立った新たなグループ収益基盤の構築を図ってまいります。

次期の見通しについてはいかがですか。

次期2013年3月期の通期業績見通しは、下表のように予想しております。国内経済の回復傾向が確かになることが期待されるところですが、欧州での債務問題や原油高などによる海外景気の下振れ懸念、電力供給の制約やデフレの影響なども存在し、先行き不透明な状況が続くものと予想されます。このため、単体ベースでは減収減益を予想しております。

また、イズミの子会社化により、連結グループ経営がスタートしました。新たに化成品関連事業と不動産賃貸関連事業を加え、全5事業による経営をグループ全役職員一丸となって推し進めてまいります。

2013年3月期の業績見通し

	連　結	単　体
●売上高	325 億円	230 億円（△10.7%）
●営業利益	13 億50 百万円	13 億30 百万円（△18.4%）
●経常利益	13 億50 百万円	13 億30 百万円（△18.8%）
●当期純利益	7 億77 百万円	7 億50 百万円（△13.8%）

＊（　）内は前期比増減率

「安定性」＋「成長性」を兼ね備えた経営基盤の構築を目指して、イズミを子会社化。今後、数年間で“グループシナジー”の最大化を図り、確かなグループ経営体制を構築してまいります。

連結子会社「イズミ」の概要と今後期待される効果は以下のとおりです

合成樹脂、ケミカルズの専門商社として、様々な業界に素材を供給するとともに、飯能（埼玉県）には、メーカー部門を有し、様々な樹脂の混練加工製造を行っております。

主な取扱品目

- プラスチック（合成樹脂、樹脂添加剤）
- シート・フィルム・テープ（各種樹脂フィルム、金属箔、ほか）
- 各種加工製品（押出製品、射出製品、ほか）
- 油脂・ケミカル（ケミカル、その他化学品）

お客様

自動車分野
建材分野
電気・電子分野
など

■ 会社概要　（2012年5月30日現在）

会社名	イズミ株式会社
設立	1940（昭和15）年12月
所在地	東京都中央区日本橋本町二丁目4番12号
代表者	代表取締役社長　中西 俊雄
事業内容	合成樹脂・油脂・化学品販売及び合成樹脂製造
資本金	7,300万円
売上高	9,988百万円（2012年3月期）

- 2012年1月10日に、ラサ商事がイズミの発行済株式の83.4%を取得（取得価額1,416百万円）
  ＊同株式はすべて、この時点で代表取締役社長を務めていた石毛 孝亘氏より取得
- 当社取締役の中西 俊雄が、2012年5月30日にイズミの代表取締役社長に就任（イズミの経営に専念すべく、当社取締役を同年6月28日に退任）

これまで当社は、資源・金属素材関連、産機・建機関連、環境設備関連の既存３事業の更なる拡大及び深化を図るとともに、新たな収益基盤の確立を図るべく、M&Aを含めた様々な業容拡大のための施策を検討してきました。

その結果、2011年12月に、合成樹脂・油脂・化学品の販売、合成樹脂の製造を主たる業務とするイズミの子会社化を決定し、2012年1月に株式を取得しました。

イズミは、事業面においては、当社が資源・金属素材関連事業において天然資源を中心とした素材を取り扱っているのに対して、化学的な処理を施した化成品関連の素材を取り扱っており、素材関連で重複が少ない点でメリットがあると考えております。

こうした状況から、

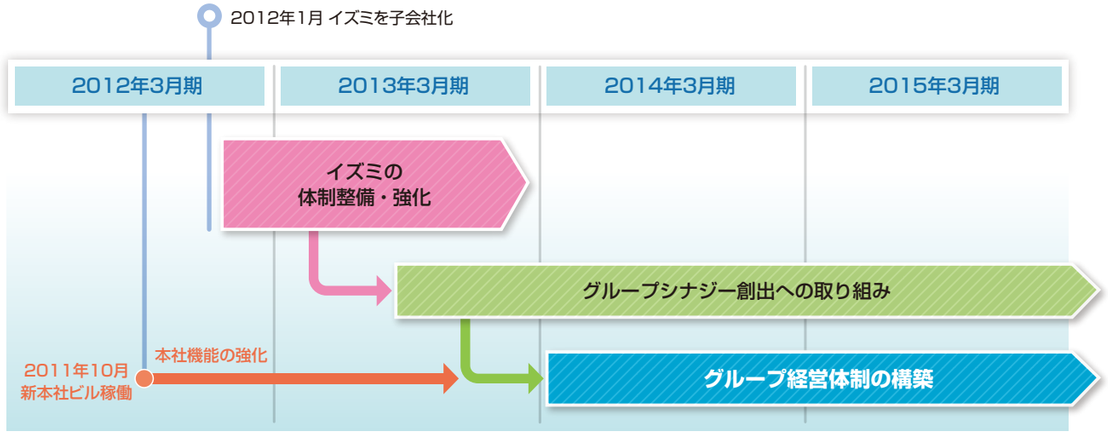
①イズミが有する事業領域を取り込むことにより、当社の既存事業の販売チャネルの拡大を図ることが可能となる

②当社が有する国内外の広範なビジネスネットワークを活用することにより同社製品の商圏拡大が可能となる

などの効果が将来的に期待されます。

また、イズミは、財務面においても、一定の有利子負債を有する一方で含み益もある優良な不動産を保有するなど、健全な状態を確保しています。なお、これが、当社本社ビルにおける不動産賃貸の開始と合わせて、不動産賃貸関連事業を同時に立ちあげるきっかけとなっております。

当社グループの今後の経営方針、取り組みのステップは以下のとおりです



イズミの体制整備・強化

イズミの子会社化に際しては、同社の経営状態や事業内容を十分に吟味しておりますが、今後、グループとして統一的な経営戦略を推し進めていくためには、経営及び事業の実態的な把握が不可欠です。2013年３月期はまずこれに専念し、ラサ商事グループ全体で見たイズミの今後の事業運営のあるべき形を見極め、体制の整備・強化を図っていきます。

グループシナジー創出への取り組み

イズミの体制整備・強化を基本としながら、同時に、グループ全体で見た管理部門コストや金融コスト等の効率化を推し進めます。また、事業活動においては、当社とイズミ両社の商品及びネットワークの相互活用を随時拡大し、グループとしての売上・利益の拡大につなげていきます。

今後の数年間は、この経営効率化と収益拡大の両面でのグループシナジー創出に取り組みます。

グループ経営体制の構築

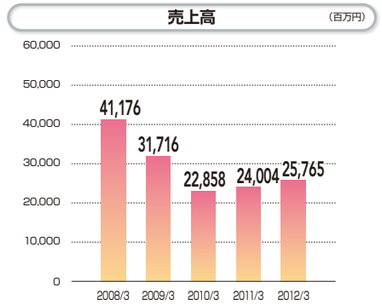
左記の取り組みをより効果的に推し進めるために、2011年10月に稼働を開始した新本社ビルをグループ本社として位置づけ、本社機能の強化を図っていきます。

これを通じて、経営戦略や施策の一体化を行うなど確かなグループ経営体制を築き上げていきます。その結果として、今後、「グループ企業価値の最大化」を実現していきます。

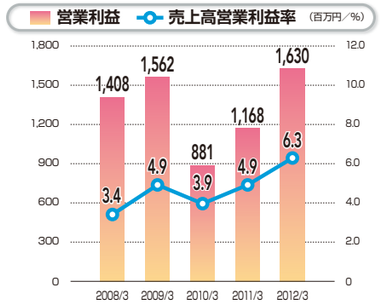
2012年3月期　業績・財務のご報告

＊2012年1月のイズミの子会社化により、2012年3月期の決算は、貸借対照表のみ連結決算を公表しております（2013年3月期第1四半期の決算よりすべての財務諸表について連結を開始いたします）。

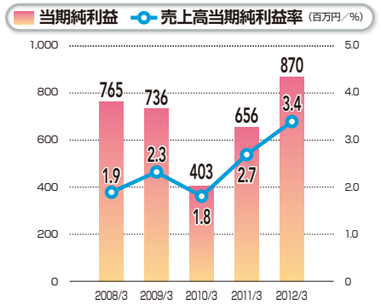
損益の状況　… 厳しい環境の中、前期実績ならびに当初予想を大幅に上回り、増収増益となりました。



震災の影響を考慮して当期はほぼ横ばいの売上高を予想しておりましたが、資源・金属素材関連事業が好調だったこと、環境設備関連事業で大型案件の売上計上があったことなどから、売上高は前期比17億60百万円（7.3%）の増収となりました。

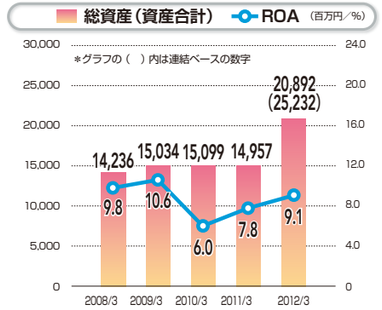


販管費が増加したものの、3事業の売上総利益がすべて増益を確保する好調な推移となったことから、営業利益は前期比4億62百万円（39.6%）増益の16億30百万円となりました。



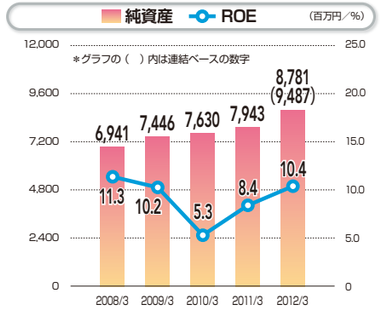
特別損失は投資有価証券評価損21百万円などがありましたが、大幅な営業増益により、当期純利益は前期比2億13百万円（32.5%）増益の8億70百万円となりました。

財政状態　… 子会社取得や本社ビル建設などを背景に、有利子負債が増加しました。



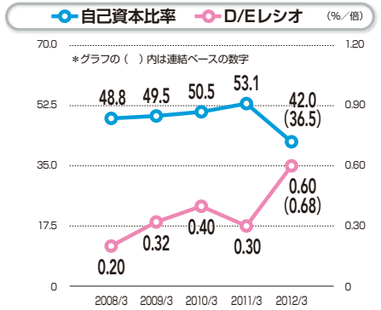
流動資産の増加（商品及び製品などの増加）、固定資産の増加（子会社株式の取得や本社関連費用など）により、単体の総資産は前期末59億34百万円増加し208億92百万円となりました。連結ベースでは、単体より土地が大幅に増加し252億32百万円となりました。

※ ROA＝経常利益÷総資産×100



利益剰余金が7億36百万円増加したことなどから、純資産は前期末比8億38百万円増加し87億81百万円となりました。連結ベースでは、単体より7億6百万円増加し94億87百万円となっております。

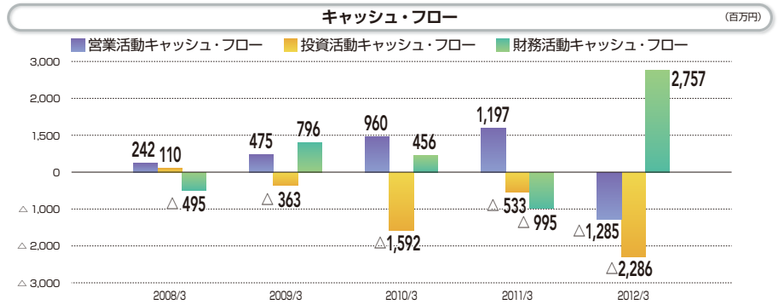
※ ROE＝当期純利益÷自己資本×100



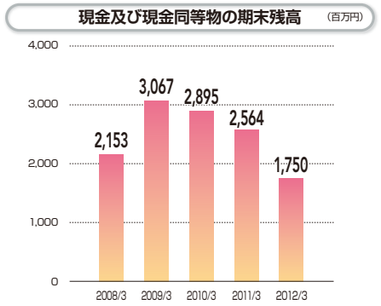
自己資本比率は、前期末比11.1ポイント低下し42.0%となりました。一方、D/Eレシオは、自己資本が増加したものの有利子負債残高が同28億16百万円増加したことから同0.30ポイント上昇し0.60倍となりました。

※ D/Eレシオ＝有利子負債÷自己資本

キャッシュ・フロー　… 当期は子会社取得などに備えて、借入金や社債発行などを厚めに行いました。

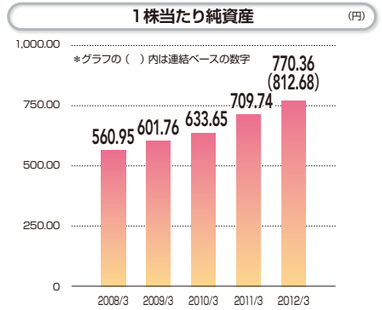


営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加などによる資金の減少が税引前当期純利益などによる資金の増加を上回り、12億85百万円の支出となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社の取得、有形固定資産（本社ビル等）の取得などから22億86百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金や社債発行による資金の増加などから27億57百万円の収入となりました。



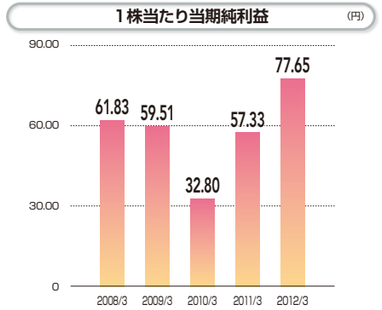
営業活動および投資活動による資金の減少の一方で、財務活動による資金の増加があった結果、当期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末比8億14百万円減の17億50百万円となりました。

配当金など　… 当期の年間配当は、前期に比べ1株当たり4円の増配となりました。



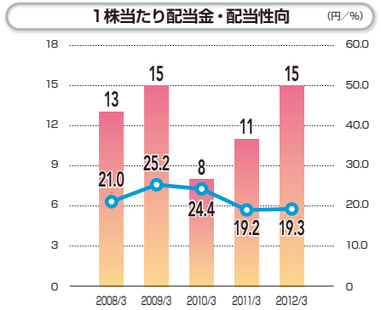
会社の資産価値を見る指標の一つである「1株当たり純資産」は、前期末比60.62円増加し770.36円となりました。なお、当社株式の当期末終値（2012年3月30日）は497円であり、PBRは0.65倍という水準にあります。

※ PBR＝株価÷1株当たり純資産



投資価値を判断する指標の一つである「1株当たり当期純利益」は、前期比20.32円増加し77.65円となりました。なお、PERは当期末終値ベースで6.40倍という水準にあります。

※ PER＝株価÷1株当たり当期純利益



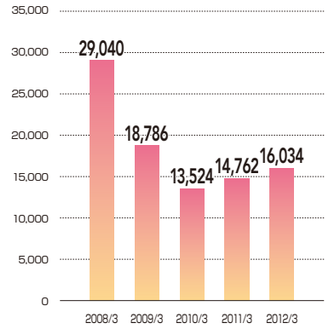
当期の配当金は、1株当たり中間で5円、期末で10円、年間で4円増配の15円とさせていただきました。配当性向は目標水準「20%前後」を維持しております。なお、次期の年間配当も当期と同額を予定しております。

2012年3月期 事業別の営業成果のご報告

資源・金属素材関連事業

売上高 2012年3月期	160億34百万円（前期比8.6%増）
営業利益 2012年3月期	7億71百万円（前期比77.2%増）

売上高の推移（百万円）



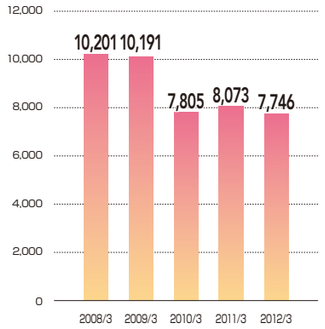
ジルコンサンドや新商材の売上増が寄与し、増収増益となりました。

全般的な資源価格の上昇などにより、ジルコンサンドの売上増に加え、輸入原料（アルミナなど）や金属シリコンなどの新商材も大幅な売上増となりました。これらの結果、同事業の売上高は前期比8.6%増収の160億34百万円、営業利益は同77.2%増益の7億71百万円となりました。

産機・建機関連事業

売上高 2012年3月期	77億46百万円（前期比4.0%減）
営業利益 2012年3月期	15億53百万円（前期比20.8%増）

売上高の推移（百万円）



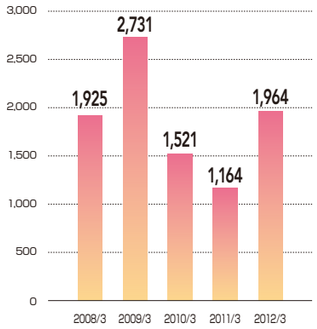
減収となったものの、徹底した効率化により大幅増益となりました。

民間企業向け各種ポンプ類の販売は好調に推移したものの、シールド掘進機の販売が低調であったため、同事業の売上高は前期比4.0%減収の77億46百万円となりました。しかしながら、営業の効率化を推進した結果、営業利益は同20.8%増益の15億53百万円となりました。

環境設備関連事業

売上高 2012年3月期	19億64百万円（前期比68.7%増）
営業利益 2012年3月期	2億43百万円（前期比58.6%増）

売上高の推移（百万円）



水砕スラグ製造設備の大型案件の一部売上計上などにより増収増益となりました。

高圧ピストンポンプ本体の販売は低調であったものの、水砕スラグ製造設備において、大型案件の売上の一部の計上に加え関連商品の販売も増加しました。これらの結果、同事業の売上高は前期比68.7%増収の19億64百万円、営業利益は同58.6%増益の2億43百万円となりました。

（注）上記の各事業別の営業利益は、セグメント間の調整前の数字です。

会社情報・株式情報（2012年3月31日現在）

会社の概要

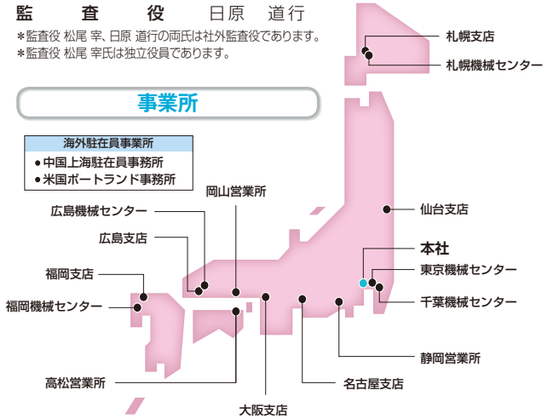
社名	ラサ商事株式会社
設立	1939（昭和14）年1月10日
資本金	18億54百万円
本社	〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町一丁目11番5号 RASA日本橋ビルディング TEL (03) 3668-8231 FAX (03) 3669-1729
売上高	257億65百万円（2012年3月期）
従業員数	239名（連結）、194名（単体）
会計監査人	監査法人大手門会計事務所
許可	特定建設業許可 （機械器具設置工事業・電気工事業・水道施設工事業） 古物商許可

取締役及び監査役（2012年6月28日現在）

代表取締役社長	井村 周一
代表取締役副社長	田畑 威彦
専務取締役	古谷 利央
専務取締役	伊藤 信利
常務取締役	澤本 滋
常務取締役	大岡 隆
取締役	本間 丈大
取締役	相澤 裕
監査役	世良 孝司
監査役	松尾 宰
監査役	日原 道行

＊監査役 松尾 宰、日原 道行の両氏は社外監査役であります。
＊監査役 松尾 宰氏は独立役員であります。

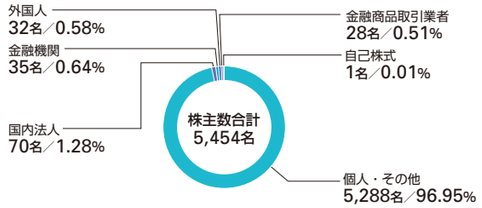
事業所

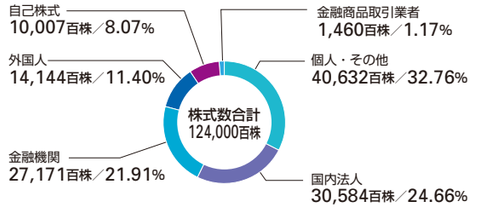


株式の状況

発行済株式の総数	12,400,000株
株主数	5,454名

所有者別株式分布状況





大株主（上位10名）

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
大平洋金属株式会社	1,040,000	8.38%
シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクー セキュリティーズ・セーフキーピング・アカウント418	720,000	5.80%
アトラス コプコ コンストラクション ツールズ エイビー	400,000	3.22%
日本生命保険相互会社	370,000	2.98%
株式会社損害保険ジャパン	370,000	2.98%
東京海上日動火災保険株式会社	360,000	2.90%
クニミネ工業株式会社	290,000	2.33%
株式会社みずほ銀行	260,000	2.09%
大平洋機工株式会社	207,000	1.66%
三機工業株式会社	200,000	1.61%

（注）当社は自己株式を1,000,770株（8.07%）保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。